



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 TOPPAN ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 磨 秀晴
(コード番号 7911 東証プライム市場)
問合せ先 取締役専務執行役員 CFO 黒部 隆
(電話番号 03-3835-5665)

2026 年 3 月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2025 年 10 月 16 日に公表しました連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026 年3月期 通期連結業績予想数値の修正(2025 年4月1日～2026 年3月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,817,000	79,000	90,000	65,000	230.40
今回修正予想(B)	1,790,000	70,000	81,000	70,000	248.12
増減額(B－A)	△27,000	△9,000	△9,000	5,000	－
増減率(%)	△1.5	△11.4	△10.0	7.7	－
(ご参考)前期実績 (2025 年3月期)	1,719,512	85,066	89,578	90,144	298.62

2. 修正の理由

情報コミュニケーション事業分野では、コミュニケーションメディアの市場縮小が当初想定以上に進んでいきます。また、海外セキュアの伸長やマーケティング DX などのデジタルビジネスの拡大は当初の想定よりやや時間を要しましたが、下期に本格寄与することとなります。BPO は金融・公共・民間向けの継続的案件の取込みを進めていますが、前年からの民間向け大型案件が当初想定より早く収束する見通しです。

生活・産業事業分野では、パッケージ事業に新規連結で取り込んだ TFP 事業にかかる立上げ一時費用の増加と米国の食品市場での需要減を見通すものです。

エレクトロニクス事業分野では、半導体関連の FC-BGA が第2四半期から復調し、下期は旺盛な需要を取り込む見通しですが、新規事業である ToF センサーの拡販時期の遅れにより当初の想定を下回る見通しです。

以上の状況により、売上高・営業利益・経常利益につきましては、前回の予想数値を下回る見込みとなりました。

一方、中期経営計画に沿って、事業ポートフォリオ変革に伴う構造改革や、資本最適化に向けた取り組みを進めていますが、投資有価証券売却益や構造改革費用等の見通しを総合的に勘案した結果、親会社株主に帰属する当期純利益と1株当たり当期純利益につきましては、前回の予想数値を上回る見込みとなりました。なお、2026 年3月期の期末配当予想は変更していません。

※前期実績(2025 年3月期)に係る各数値については、2025 年8月8日の決算短信にて公表しました会計方針の変更に関する注記に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用の本邦通貨への換算方法の変更により遡及修正が行われたため、遡及修正後の数値を記載しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により当該予想値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上